

「同志社看護」第7巻の発刊によせて

今年も「同志社看護」をお届けすることができました。これも関係の皆様のお力添えの賜物と心より厚くお礼申し上げます。

「同志社看護」は、看護に関する研究論文に加え、日頃の教育実践活動を取りまとめた教育実践研究や報告、あるいは社会貢献活動の成果報告、大学運営に関する内容など、幅広い内容を盛り込んでいきたいと考えております。第7巻には、資料1編、研究活動報告1編と学会講演録を掲載させていただきました。

2021年2月にコロナウイルスのワクチン接種が開始され、本法人でも職域接種が行われました。安心したのもつかの間、新型コロナは変異を繰り返し、今夏には感染力の強いデルタ株が流行しました。そして、冬には新変異株オミクロン株が確認され、第6波が押し寄せています。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出される度に、教育や研究活動に影響が出ています。

2021年度は、科学研究費助成事業の公募スケジュールの前倒しが行われました。基盤研究(B、C)及び若手研究は8月上旬に公募開始され、公募締切は10月上旬、交付内定2022年2月末と周知されました。これにより前年度中に応募課題の採否結果が通知され、交付予定額の確認ができます。その結果、研究要員の継続雇用や物品調達等の事前手続きが行いやすくなり、年度当初からの研究実施をより効果的に進めていくことができます。応募者としては、新型コロナ感染症がいつ終息するのか先が見えない不確かな状況で、今回のスケジュールの前倒しは、厳しかったというのが正直な感想です。そのため今回の応募件数の動向はとても興味深く感じます。さらに、私自身、昨年は「来年には、臨床でのデータ収集も再開できるかな」と安易に考えていたこともあり、この2年間、データ収集に取り組むことができない状況は、今後、ボディブローのように効いてくると思います。また、学会も多くがオンラインとなり、移動時間は短縮され、旅費負担もなく参加できるものの、研究者との新たな出逢いや「また、学会で会いましょう」と会話をする機会もなくなりました。新型コロナ感染症がいつ終息するのか先が見えない不確かな時を迎えて、いかに研究を継続していくか、研究課題に取り組むモチベーションを失わずに乗り越えたいと思います。

最後に、「同志社看護」の発刊は、同志社女子大学看護学会の事業の一環です。教員のみならず、学生達と共に、この看護学部のすばらしい未来をつくりあげていくことへの一つの足跡になることを願っています。

看護学部長 眞鍋えみ子